



東上空から見たNesrad

米倉山次世代エネルギーシステム 研究開発ビレッジ完成

水素・燃料電池に関する技術開発や研究などを行う施設が米倉山（甲府市）に完成しました。この施設は、入居する企業がそれぞれのプロジェクトを進めるほか、互いに連携し、技術者や研究者が交流することによってイノベーション（技術革新）が生み出される研究開発拠点の役割を担います。

県は、さまざまな分野の関係者が連携した研究開発でイノベーションを促すことにより、水素など新たなエネルギーを用いる社会を実現するための技術を、世界に先駆けて確立していきます。

企業連携と技術者交流で 協奏を生む

燃やしても二酸化炭素を出さない水素は、カーボンニュートラル社会実現の切り札となる新たなエネルギーとして、幅広い分野での活用が期待されています。一方で、新たなエネルギーを社会へ普及させるためには、技術的課題やコスト面、供給体制など乗り越えなければならぬさまざまな壁があります。

こうした課題を着実に解消していくには、企業や研究機関が個別に研究を積み重ねるだけでなく、あらゆる関係者が連携や交流することによってイノベーションへとつなげていく必要があります。



入居企業や技術者の交流が行われるエリア。他にもセミナールームがある

そこで県は、水素・燃料電池関連の先端技術を持った企業を集め、情報の交換や共有をしながら研究開発

を進めることができる施設「米倉山次世代エネルギーシステム研究開発ビレッジ(Nesrad)」を、県の米倉山電力貯蔵技術研究サイトへ新たに設置しました。

本県がこれまで積み上げてきた水素・燃料電池に関する技術開発や研究、実証の成果を活用して、入居する企業同士が連携し、また研究者らと交流し互いに高め合う環境を提供します。Nesradの完成で、飛躍的に技術が進展していくことが見込まれます。

世界最高水準の研究開発拠点

県内には、山梨大学の水素・燃料電池ナノ材料研究センターや水素供給利用技術協会の水素技術センター、県産業技術センター、県米倉山電力貯蔵技術研究サイトなど、水素・燃料電池に関する研究機関が集積しています。Nesradは、これら世界最高水準の研究開発拠点に新たに名を連ねる施設です。

設置をきっかけに、本県の水素・燃料電池分野の研究開発拠点で蓄積された技術などを求めて県外から進出してくる新たな企業や技術者・研究者が集まり、これらと県内企業との連携が進むことで、経済の活性化が期待できます。

あの技術者集団もNesradに

燃料電池分野で日本を代表する研究・評価機関「技術研究組合FC・Cubic」の研究拠点が東京お台場からNesradに移転しました。

FC・Cubicは、トヨタや日産、パナソニックをはじめとする40企業のほか、5つの大学や国の研究機関で構成されていて、水素・燃料電池に携わる人なら誰もが知っている技術者集団です。燃料電池システム開発を支えるための研究や解析を行っているほか、大学の英知を産業界へ展開するための橋渡しをするなど、日本の燃料電池分野の研究や開発の中心的役割を担っています。

県は、FC・Cubicと水素・燃料電池分野の企業、既存の研究機関などと連携を図り、山梨で確立した技術が世界へ羽ばたいていくよう、取り組みを進めていきます。



FC-Cubicが入居する棟に設置されたロゴマーク入りの看板

Nesradに入居する企業が実施するプロジェクト

企業名	主なプロジェクト概要
(株)ミラプロ	水素エネルギー利用拡大を促す水素液化設備の実証
東レ(株)	カーボンニュートラル実現へ向けた大規模P2Gシステムによるエネルギー需要転換・利用技術開発
(株)NTTドコモ エクセルギー・パワー・システムズ(株)の共同事業	携帯電話基地局を活用した次世代エネルギーネットワークの実証
(株)巴商会	多様な水素圧力容器に充填・利用可能な設備の実証
ヒラソル・エナジー(株)	IoTを活用した「百年続く太陽光発電」を実現するための維持管理技術の実証
武蔵エナジーソリューションズ(株)	再生可能エネルギー活用範囲拡大のためのリチウムイオンキャパシタ電源システム構築の実証
エクセルギー・パワー・システムズ(株)	蓄電池と燃料電池を組み合わせた電源のゼロエミッション化実証
(株)やまなしハイドロジェンカンパニー	固体高分子(PEM)形水電解装置の技術開発

